目　次

まえがき 1

序章　今、そこにある多言語な世界 5
柿原武史

第Ⅰ部　ニッポンの多言語な現場から 11

第1章　イスラム横丁とコプト正教会から見る多言語な日常 13
榮谷温子

第2章　日本人の手を離れるニホンゴ 27
上村圭介

第3章　LINE スタンプが拓く多言語社会 39
岡本能里子

第4章　気づけばクラスメートは「外国人」 53
柿原武史

第5章　語学学校などで学べるいろいろな言語 67
森住　衛

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第Ⅱ部　多言語なニッポンの歩き方 87

第 6 章　外国人観光客への真の「おもてなし」 89
長谷川由起子・柿原武史

第 7 章　地方自治体のホームページから見る多言語対応 103
臼山利信・芹川京次竜

第 8 章　「やさしい日本語」は多文化共生社会の橋渡し役 119
臼山利信・岡本能里子

第 9 章　コリア系住民の歴史から学ぶ日本の未来へのヒント ... 137
長谷川由起子

終章　数字で見るニッポン 153
臼山利信・柿原武史・芹川京次竜

あとがき 161

執筆者一覧 163

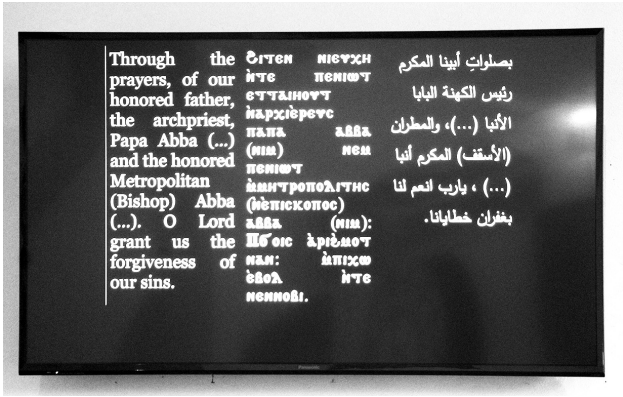
編者紹介 165

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第1章

イスラム横丁とコプト正教会から見る多言語な日常

榮谷温子



コプト正教会の聖体礼儀中に映し出される英語、コプト語、アラビア語の字幕

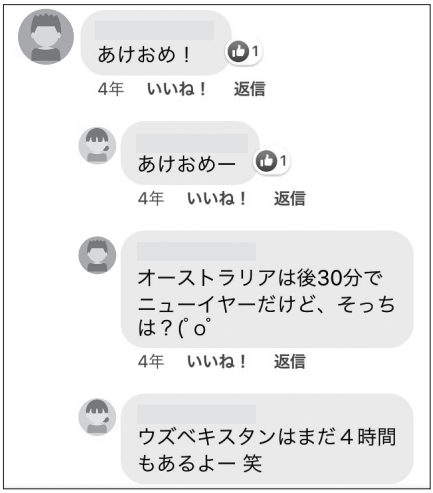
日本だから日本語が話されているとは限りません。日本固有の言語、たとえば北海道のアイヌ語や沖縄の琉球諸語などの存在を忘れてはいけませんし、外国から日本に来た人々の話すさまざまな言語が日本各地で聞かれます。本章では、そうした多言語なニッポンをちょっと覗いてみましょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 2 章

日本人の手を離れるニホンゴ

上村圭介



帰国後の交換留学生同士の新年メッセージ

日本語を話すのは、いまや日本人だけではありません。日本に暮らす外国人が増加する中、日本人と外国人が外国語や日本語で話す機会も増えてきました。そして、日本に暮らしている外国人の間でも日本語が共通語として使われる状況も増えてきているようです。日本語が大切だと思うのは、日本語を母語とした日本人だけではありません。グローバル化といわれる社会の変化の中で、ある言語がその言語の母語話者だけのものではなくなりつつあるということを、身近な日本語で見てみましょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 3 章

LINEスタンプが拓く多言語社会

岡本能里子

LINE クリエイターズスタンプ「スペイン語と日本語　春　発音付」teg（2015）

スマートフォンの普及に伴い、LINE などの SNS を利用して、私たちは日々気軽にメッセージを発信したり、撮ったばかりの写真や動画を送り合って経験や思いを共有しています。特に、SNS のコミュニケーション空間は、さまざまな言語文化的背景を有する人々とのコミュニケーションの促進に大いに役に立っています。そこから生まれるさまざまな可能性について考えてみましょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 4 章

気づけばクラスメートは「外国人」

柿原武史

ひな祭りをお祝いする、別府の日本語教室に通っていた皆さん

外国人住民の増加に伴って、外国にルーツを持つ子どもたちも増えています。多くの学校には、日本語が話せない、話せても学校の勉強についていくために必要な日本語能力が十分にはないという子どもたちが通っています。これは、なにも大都市や外国人が多く住む地域に限ったことではありません。いまやどこの街のどこの学校でも、起こりうることなのです。本章では、外国にルーツを持つ子どもたちを受け入れる現場で奮闘する先生たちの姿を紹介します。今後増加が予想されるこうした子どもたちの受け入れに、何が必要なのかを考えてみましょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 5 章

語学学校などで学べる いろいろな言語

森住　衛

中国語講座の教室風景

自分の母語以外の言語、つまり異言語を学ぶことは、その言語を使っている人たちを理解することであり、それは、最終的には自分を見直したり、豊かにしてくれたりすることにつながります。これに加えて、いまや本格的なグローバル社会の時代を迎えて、日本人には、ますます多くの言語への関心を持つことや学習することが必要になってきています。異言語を学ぶ機会としては、まず、小中高大などの学校教育があります。しかし、これらの学校教育以外の場でもいろいろな言語が学べます。本章では、どこで、どのような言語が学べるかを紹介し、その意義を考えてみます。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 6 章

外国人観光客への真の「おもてなし」

長谷川由起子・柿原武史

佐賀県祐徳稲荷神社の多言語のおみくじ

21世紀に入り、日本は本格的な観光立国時代を迎えました。国をあげての観光振興策によって経済は潤い、地域の活性化にも貢献しています。一方で、古くからの有名観光地にも、これまであまり知られていなかった地域にも、過去になかった大勢の外国人旅行客が訪れ、地域住民とさまざまな軋轢を生んでいるのも事実です。今後ますます訪日外国人旅行客の増加が見込まれる中、観光に関わる人々、そして地域の人々はどう対応していけばいいのでしょうか。各地の対応事例などを通じて、考えてみたいと思います。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 7 章

地方自治体のホームページから見る多言語対応

白山利信・芹川京次竜

東京都のホームページ

皆さんは粗大ゴミの出し方を知りたいと思ったとき、どのようにして情報を入手しますか。おそらく、自治体の広報誌を見たり、それが手元になければ、インターネットで自治体の情報を検索したりするのではないでしょうか。では、隣に住む外国人の方はどのように調べるのでしょうか。実は、現在多くの自治体が、日本語以外の言語で、ゴミ出しをはじめさまざまな生活情報をインターネットで発信しているのです。本章では、自治体の多言語による情報発信について見ていきます。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 8 章

「やさしい日本語」は多文化共生社会の橋渡し役

臼山利信・岡本能里子

避難訓練時の「やさしい日本語」（弘前市、2019年 9 月）

「やさしい日本語」ということばを耳にしたことはありませんか。「やさしい日本語」とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすいことばのことを言います。現在、仕事や留学などで日本に暮らす外国人が増えてきて、ほとんど日本語ができない人も数多くいます。それでも日本で生活し、働いていく場合には、最低限の日本語によるコミュニケーション能力が必要になります。今、この「やさしい日本語」が地方自治体などで大きな注目を集めています。本章では、日本社会と定住する外国人住民との橋渡し役としての「やさしい日本語」の現状などについて紹介します。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第 9 章

コリア系住民の歴史から学ぶ日本の未来へのヒント

長谷川由起子

大阪市生野区のコリアタウン

日本に暮らす外国人住民はついに人口の２％を超え、今後その割合はますます増えることが予想されています。しかし、彼らにとって移住先である日本は外国ですから、予想外の問題や困難に直面しやすいものです。外国人であるがゆえに理不尽な状況に直面することもあるかもしれません。本章でお話しするコリア系住民は、外国人住民の先輩格として、長きにわたりさまざまな困難を経験し、課題を克服してきました。彼らの来し方を知ることは、新たな外国人住民とともに暮らす時代にヒントを与えてくれることでしょう。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

終章

数字で見るニッポン

白山利信・柿原武史・芹川京次竜

留学生支援のミーティングの日常風景（筑波大学）

最近、大都市や観光地だけではなく、どこへ行っても外国人の姿を目にするようになりました。そして、さまざまな言語が聞こえてくるようになりました。本書ではさまざまな事例を取り上げて、日常的に多言語が使われているニッポンの今に迫ってみました。終章では、そんなニッポンの今を客観的な数字で検証してみたいと思います。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers